

## 編集委員長からのお願い

日本健康医学会雑誌（本会誌）も本号で29巻になりました。毎年50報前後の投稿をいただいていることに御礼を申し上げます。編集する立場から投稿される会員の皆様をお願いしたいことがあります。昨年度の後半あたりから、掲載論文における引用文献の記載方法を厳格に統一するように努めていますが、なかなか徹底できません。あらためて、投稿の際に留意いただきたいことを述べたいと思います。

### I. 引用文献の記載法

#### A. 論文の場合

記載法の原則は、『著者名(全員):論文タイトル. 雑誌名(略称) 巻数(号数は必要な場合のみ):掲載ページ(開始-最終), 刊行年』です。

著者名について、本会誌では多数であっても必ず全員の姓名を記すことにしています。この点を遵守してください。英文論文の場合は、Yoshida Mのようにfamily nameを前にし、first nameは大文字のイニシャルのみにしてください。1人の著者の中にカンマやピリオドは入れないでください。外国人の場合、second name以降をお持ちの方がいますが、Johnson GWのようにピリオドを挟まずにイニシャルのみをfirst nameに続けてください。また、著者と著者の間はカンマでつないでください。最終著者の前にandは入れないでください。

著者名と論文のタイトルの間はコロン(:)にしてください。論文タイトルも省略せずに全文を記してください。英文論文の場合、大文字にするのはタイトルの先頭の1文字のみです。元の論文では、タイトルの単語ごとに先頭文字を大文字にしていることが多いと思いますが、引用する場合はタイトル先頭の1文字のみが大文字です。ただし、タイトル中にピリオドが存在し、副題が添えられている場合は、副題の先頭文字も大文字にしてください。

タイトルと雑誌名の間はピリオドにしてください。雑誌名は必ず略称にしてください。和文雑誌は医学中央雑誌、英文雑誌はpubmedが採用している略称に準じてください。なお、特定の大学や研究機関が刊行している紀要的なものの中には、一見しただけでは紀要であることがわからないものがあります。このような場合は、雑誌名の後に発行元の研究機関を括弧書きで入れてください。

雑誌名と巻数の間は半角空けてください。ただし、カンマやピリオドなどは入れないでください。号数は、号ごとにページが振り直されている場合にのみ、巻数のあとに空白を入れずに『32(3)』のように括弧書きしてください。

巻数と開始ページの間は、半角コロン+半角空けにしてください。そして、最終ページと刊行年の間は、半角カンマ+半角空けとし、刊行年のあとにピリオドは入れないでください。たとえば『日健医誌 28:78-86, 2018』という記載が正解です。

#### B. 書籍の場合

書籍の引用には色々なパターンがあり、統一することが難しいのですが、29巻1号からは以下のように統一したいと思います（裏表紙の投稿規定も変更しています）。

引用の最小単位は章または節としてください。数行単位の特定の記述を切り取って引用することは、執筆者の意図と異なることを引用するリスクがあるので避けてください。とくに人文科学や社会科学系の書籍の場合、書籍全体で1つの思想が形成されていることがあります。そのような書籍について部分引用することは避けるべきだと思います。

#### 1. 章または節単位の引用であり、章または節の執筆者が明らかな場合

原則として、『引用した章または節の執筆者名:章または節のタイトル. 書籍の名称, 編者名(全ページ

数), 開始ページ-最終ページ, 出版社名, 出版社の所在都市, 刊行年』とします。

執筆者名, 編者名は全員の名前を論文と同じ要領で記載してください。書籍の名称には副題と第何版であるのかも記してください。本題と副題の間は、ハイフオン、ピリオドなどでつなげられていると思いますが、元の書籍にしたがってください。ハイフオンもピリオドも存在しない場合は、半角空けてください。また、書籍名と版数の間も半角空けてください。

全ページ数は、和文の場合『(全 450p)』, 英文の場合は『(560p)』としてください。不明の場合は記載しなくても構いません。開始ページ-最終ページは和文・英文ともに『p 109-165』のようにしてください。

執筆者名と章または節のタイトルの間はコロン (:), 章または節のタイトルと書籍名の間はピリオド, 書籍名と編者名, 編者名とページ, ページと出版社名, 出版社と所在都市, 所在都市と刊行年の間はいずれもカンマにしてください。刊行年のあとにはピリオドを入れないでください。

## 2. 編者が存在し、章または節単位の引用であるが、章または節の執筆者が明らかでない場合

原則として、『編者名：章または節のタイトル, 書籍の名称 (全ページ数), 開始ページ-最終ページ, 出版社名, 出版社の所在都市, 刊行年』とします。記載の詳細は上記と同じです。

## 3. 1人または複数の著者で全体が執筆されている場合

原則として、『著者名：書籍の名称, 全ページ数, 出版社名, 出版社の所在都市, 刊行年』で十分です。特定の章または節を明示することが読者に親切と考えられる場合は、上記2に準じてください。特定の章または節を明示しない場合, 全ページ数は必須です。

上記1, 2, 3は以下のように例示できます。

### 1のケース

左右田健次：酵素と微量元素. 微量元素と生体, 木村修一, 左右田健次編 (全 260p), p 110-120, 秀潤社, 東京, 1987

Bremner I, May PM : Systemic interactions of zinc. Zinc in human biology, Mills CF ed, p 95-108, Springer-Verlag, London, 1989

### 2のケース

杉野佳江編：清潔援助の実際 洗髪・結髪. 標準看護学講座 13 基礎看護学 2 日常生活と看護技術 第5版 (全 450p), p 395-399, 金原出版, 東京, 2003

### 3のケース

広田すみれ：読む統計学使う統計学 初版, 234p, 慶應義塾大学出版会, 東京, 2005

1と2のケースにおいて、全ページ数は必須ではありませんが、わかっている場合は記載してください。

解説書やテキストは数年単位で版が重ねられていますので、確認して正しいものを記載してください。また、年単位で増刷されている場合、発行年も変化していますが、該当する版の初刷の年を記載してください。

## C. Web ページの場合

Web ページの引用が認められるのは、そのページが存在が半永久的に保障されている場合です。たとえば、公的機関などが報告書などを公表している場合が当てはまります。逆にいえば、私的な HP やブログなどの引用は、原則として認められないということです。大学、研究所、大企業などの HP でも、随時更新されて記事が消滅する可能性がありますので、引用は避けるべきです。また、報告書についても、印刷されたものが公的に存在する場合は、web ではなく印刷物のほうを引用するようにしてください。

Web ページの引用は、原則として、『Web を運用している機関名：報告書（あるいは記事，統計書）名，引用する部分の開始ページ-最終ページ（または，引用している図表の番号，あるいは報告書の全ページ数），引用する記事などの名称（なくても構わない），報告書が公開された年（判明している場合），web のアドレス（括弧書きでアクセス日）』とします。

具体的には以下のように記してください。

厚生労働省：平成 29 年国民健康・栄養調査報告. p57-100, 第 1 部 栄養素等摂取状況調査の結果, [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/eiyuu/h29-houkoku.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/eiyuu/h29-houkoku.html) (2020年2月26日アクセス)

## II. 略称の使用

略称の中には WHO（世界保健機関），ICU（集中治療室）のように一般にも認知されているものと専門分野の中でのみ認知されているものがあります。両者を線引きすることは難しいので，本会誌ではすべての略称について，初出の箇所で正しく定義することとします。なお，論文の表題において略称を使用することは，原則として認めません。また，要旨と本文は，それぞれ独立しているものですので，略称の定義はそれぞれにおいて必要です。

## III. その他

### A. 仮名遣いについて

本会誌では，漢字を用いるのは「名詞」，「動詞」，「形容詞」，「形容動詞」としています。「副詞」，「連体詞」，「接続詞」，「接頭語」，「接尾語」，「助動詞」などは原則として平仮名書きにしてください。

すなわち，「及び」，「並びに」，「例えば」，「～等」などではなく，「および」，「ならびに」，「たとえば」，「～など」と記載してください。ただし，法律など，元の文書が漢字書きしているものを直接に引用する場合は，引用元の記載に従ってください。

### B. 英文タイトルにおける大文字の使用

英文タイトルにおいては，各単語の最初の文字を大文字にしてください。ただし，冠詞（a, an, the），等位接続詞（and, but, or, not, yet, for, so など），前置詞（at, by, down, for, from, in, on, to, with など）はすべて小文字にしてください。なお，等位接続詞や前置詞であっても 5 文字以上の場合（about, above, before, after, between など）は，最初の文字を大文字にしてください。従属接続詞（if, although, because, unless など），関係代名詞（that, which, who など）は先頭を大文字にしますが，これらの使用はタイトルが複雑になることを意味しますので，タイトルに使用することは原則として避けるべきです。

以上

## 日本健康医学会雑誌投稿規定

1. 原稿の種類は、総説(Review)、原著(Original article)、短報(Short communication)、症例・事例報告(Case report)、資料(Note)に区分する。  
短報とは、「断片的であるため原著論文としてまとめることはできないが、公表することが健康医学研究の発展に寄与するもの」、症例・事例報告とは、「臨床・介護・看護・保健活動等の事例で、公表することが健康医学の発展に寄与しうるもの」、資料とは、「会員に参考となる社会科学・自然科学に関する記録等」をそれぞれさす。
2. 原稿は、他紙に発表済・投稿中でないものに限る。
3. 依頼総説を除き、投稿者は、原則として全員が日本健康医学会会員に限る。
4. 原稿は、編集委員会で査読し、採否を決定する。
5. 本誌に掲載された原稿の著作権は、本会に属する。
6. 倫理上の配慮が必要な研究を記述する場合は、配慮の具体的内容を論文に明記する。
7. 和文、英文のいずれの原稿も受け付ける。
8. 原稿中の英文は、Native speakerのチェックを受ける。
9. 投稿は、電子メール添付または郵送のいずれも受け付ける。

【電子投稿】原則としてMS-Word形式の単一ファイルとして作成した電子原稿を、下記の日本健康医学会雑誌編集部メールアドレスに電子メールの添付書類として送付する。図および写真をPower pointなどの汎用ソフトウェアで作成し、別ファイルにまとめても構わないが、念のためPDF形式のファイルも送付する。

【郵送による投稿】プリントアウトした原稿を3部(うち2部はコピーでもよい)、および電子原稿のファイルを保存したメディアを下記の編集部宛に封書で送付する。

日本健康医学会雑誌編集部  
東京都世田谷区桜丘1-1-1 (〒156-8502)  
東京農業大学短期大学醸造学科内  
E-mail : ando@nodai.ac.jp

10. 原則として刷り上がり4頁(図表等を含む)までは無料掲載とするが、これを超過する分は実費を徴収する。刷り上がり4頁の目安は、図表を含め、和文で8000文字程度、英文で16000文字程度である。
11. 別刷りは10部まで無料である。別刷を希望する場合は、無料分を含めた部数を原稿の第1頁に朱書きする。
12. 原稿の作成は以下の要領に従う。
  - ①原稿は和文・英文ともに10から12ポイントの文字でA4用紙にダブルスペースで印字する。
  - ②第1頁には次の項目を、和文原稿は和文と英文の両方、英文原稿は英文のみで記載する。

タイトル、著者(全員をフルネームで)、全員の所属、論文の種類、連絡先住所、電話番号、ファクス番号、電子メールアドレス

※著者のうち、コレスポンディングオーサーには氏名横に※印をつけること。

- ③和文、英文、いずれも、第2頁にはアブストラクトとキーワード(3-7語)を記載する。
- ④第3頁に、和文原稿の場合は英文、英文原稿の場合は和文のアブストラクトを記載する。
- ⑤本文は第4頁以降に記述する。原著および短報の章立ては原則として以下のとおりとする。緒言(Introduction)、方法(Methods)、結果(Results)、考察(Discussion)、文献(References)。なお、結果と考察を1つの章にまとめてもよい。
- ⑥図表は、文献も含めた本文のあとに、1頁に1つずつ記載する。
- ⑦和文原稿の図表は和文、英文のいずれで作成しても構わないが、ひとつの論文の中で統一する。
- ⑧図および写真は原則としてモノクロとする。カラー印刷希望の場合は、その旨を記載する。なお、カラー印刷にかかる費用は、著者負担とする。
- ⑨引用文献は、本文中の該当個所に片カッコに入れた番号1)を肩文字として順につけ、文献の欄にその番号順に記述する。
- ⑩引用文献の記述は以下の形式とする。

論文の場合

  - 1) 原美利行：各種疾患における血清亜鉛値と硫酸亜鉛による治療成績。微量金属代謝1：19-36, 1975
  - 2) Johnson GW, Evance EC : Zinc absorption in rats fed a low-protein diet and a low-protein diet supplemented with tryptophan or picolinic acid. J Nutr 125 : 1081-1089, 1999.

単行本の場合

  - 3) 左右田健次：酵素と微量元素。木村修一、左右田健次編：微量元素と生体、秀潤社、東京、1987、110-120.
  - 4) Bremner I, May PM : Systemic interactions of zinc. Mills CF (ed) : Zinc in human biology. Springer-Verlag, London, 1989, 95-108.
  - 5) Reilly C : Selenium in food and health. Blackie Academic & Professional, London, 1996, 110-132.
- ⑪原稿中の単位は、原則として国際単位系(SI)に従う。ただし、ppm, dL, kcal, mmHgなど、慣用的に広く使われている単位の使用は構わない。なお、ℓ(リットル)は、数字の「1」との誤認を避けるため、大文字の「L」を使用する。

(201601)